

平輪と光

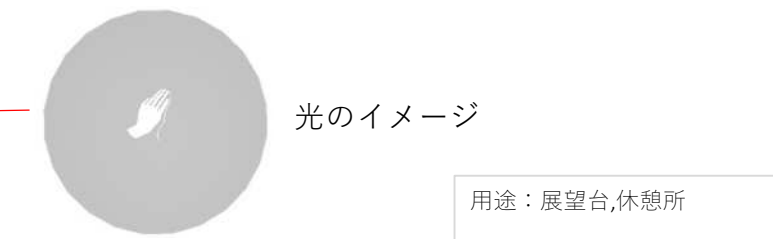
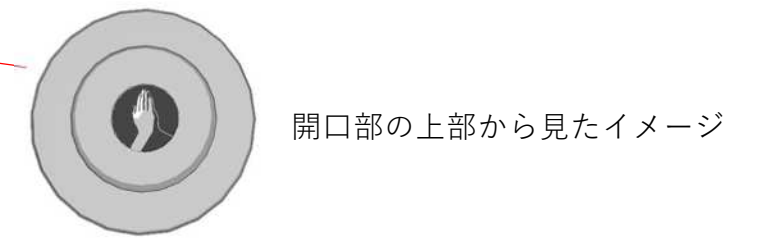
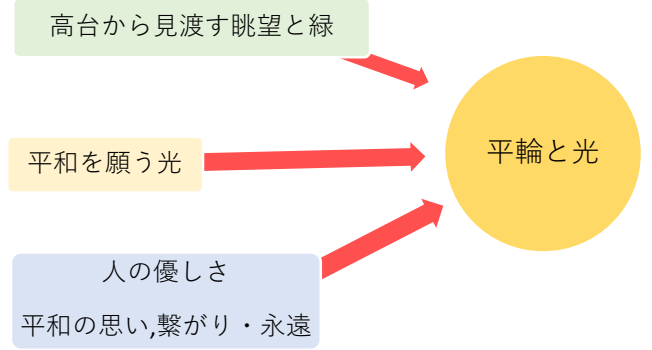


Concept

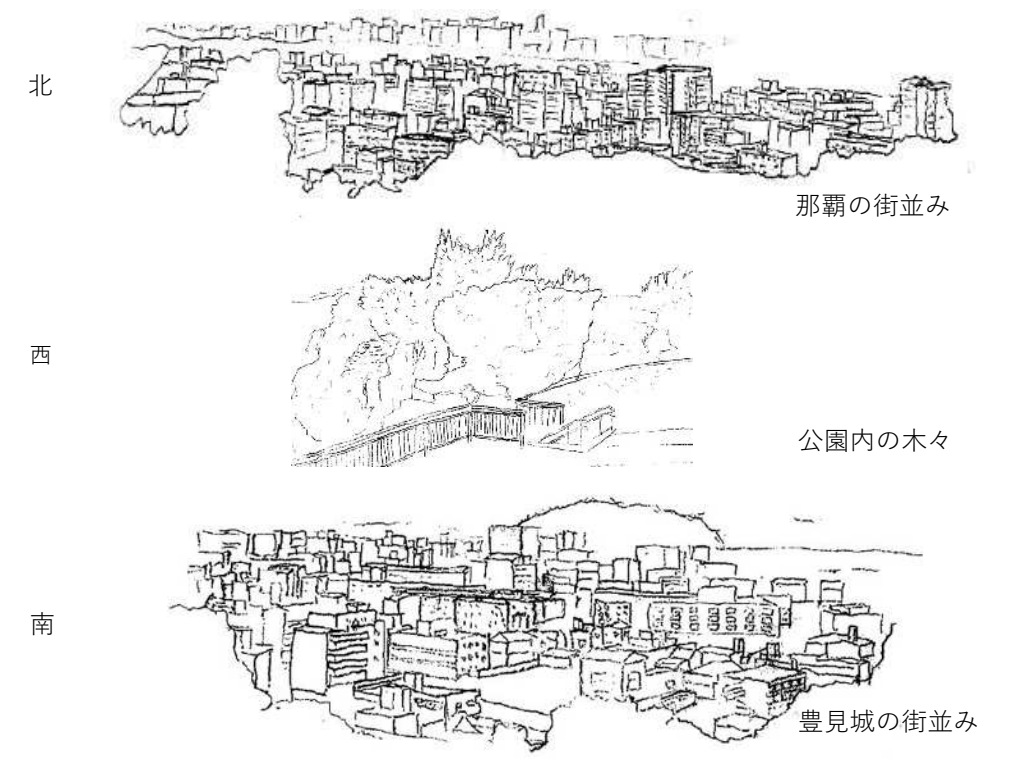
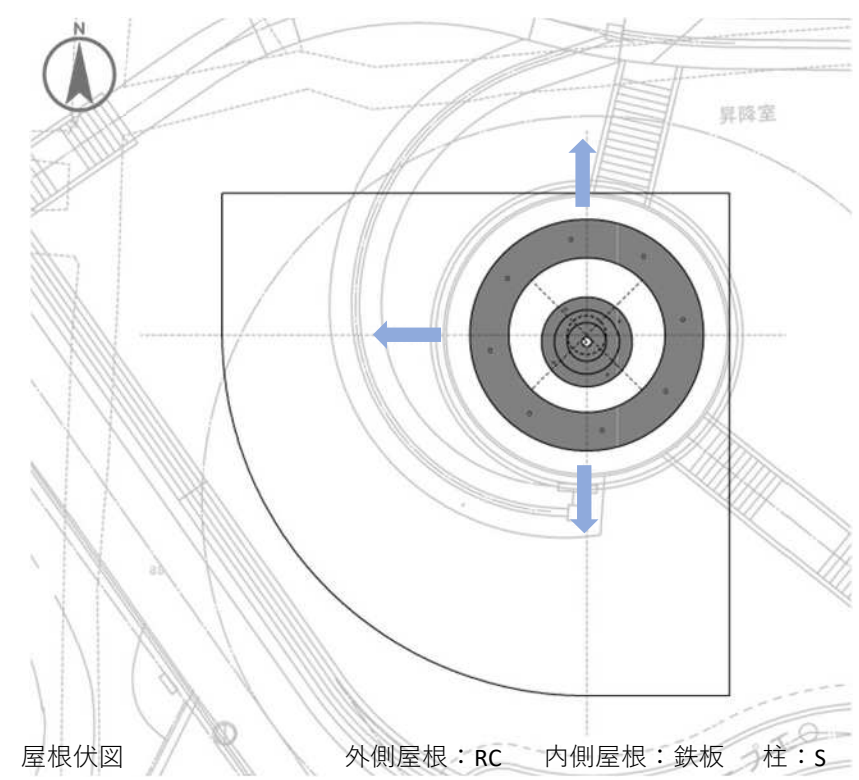
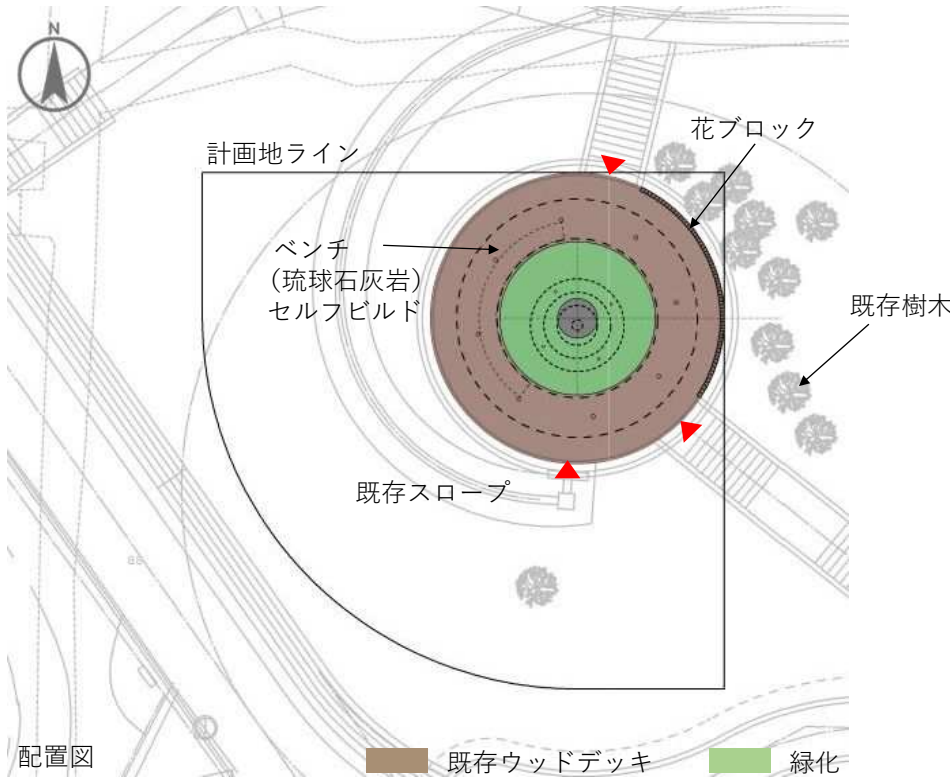
沖縄戦時中の記録が色濃く残る海軍壕公園の高台に、豊見城・那覇一面を見渡せる眺望と休憩所がある。

その場所に屋根をかける大きな「輪」と中心に太陽の光が差し込む小さな「輪」それぞれが絶えることのない「平和」を意味する。

景色を眺めながら、座って休息をとりながら、改めて「平輪」を感じ、考える空間を提供する。



用途：展望台, 休憩所
構造：RC造(一部S造)
面積：44.94㎡(屋根投影面積)



Diagram



□「輪」について

高台から見渡す眺望
 南...豊見城の街並み 西...公園内の木々
 北...那覇の街並み 東...敷地横の木々

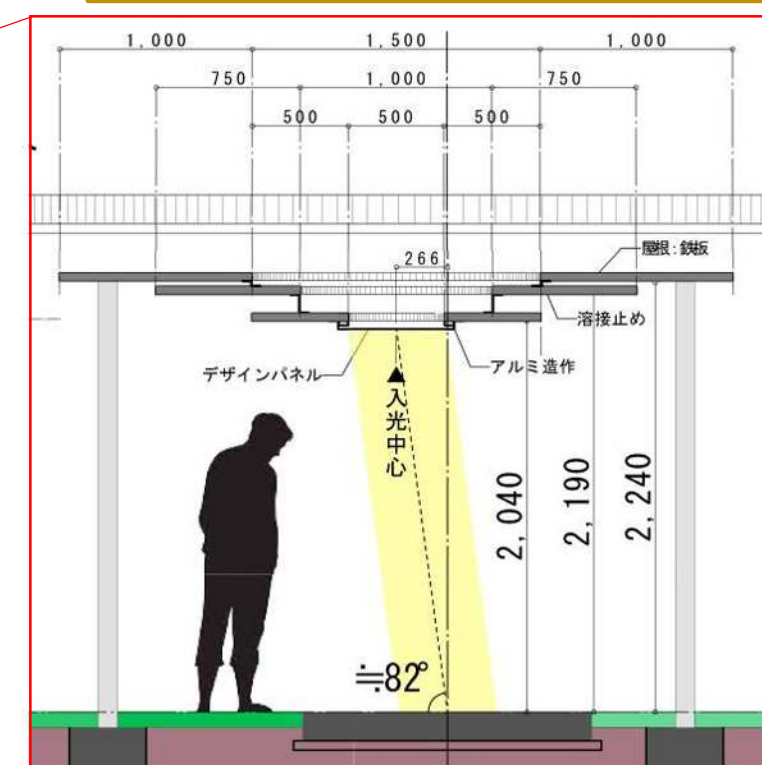
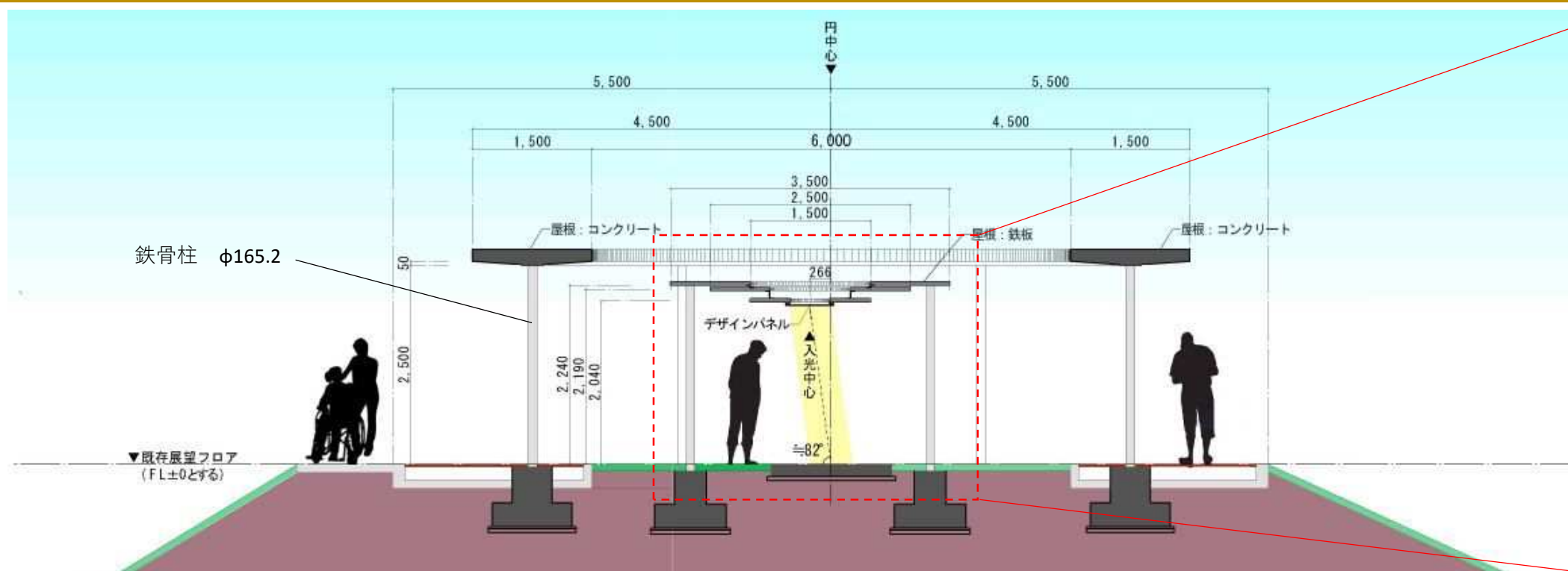
それぞれを見渡すための円状の屋根を設ける。円は途切れることのない連続性を意味することから、「平和」がいつまでも続くことを表現した。また、中心に重なりのある円状の屋根を配置することで、これからも平和が重なっていくようにと願いを込めた。



□「光」について

屋根に一部円状の開口を設ける。そこに太陽の光が当たることによって、一筋の光としてスラブに映し出される。太陽の位置や角度を考慮し、6/23(慰霊の日)正午にスラブの中心に光が当たるような計画となっており、人々の希望の光として照らし続ける。

デザインパネルは毎年公募により決定する。
 →建築×アート



断面図

